

精神障がい者の音楽を通じた社会参加

特定非営利活動法人 聖公会生野センター

〒544-0002 大阪府大阪市生野区小路 3-11-19

助成事業の概要

実施目的・・・福祉活動の余暇から始まり、約 16 年間ジャズを中心に音楽活動をして参りました。福祉的な視点からはより高度な相互承認や自己実現の欲求という部分も支援できれば、精神障がい者の社会的なつながりにも通じるモデルケースとして有効だと考えます。音楽的な視点からはプロと対等にセッションを出来るようになれば、今後の音楽活動に対し幅広い視点で取り組む事が出来ると考えます。最終的な欲求である相互承認や自己実現の欲求も支援することで 1 つの福祉モデルケースになりえると考えます。モデルケースとして確立することで他の利用者及び他の分野への適応も考えることができ、よりクオリティの高い福祉活動を行う事が目的です。

時期・・・2025/4 月～2026/3 の間

内容・・・様々な場所で開催されているジャズのジャムセッションに、支援者と当事者の二人で参加をする。その際、ただ参加するだけではなく、その場を経験する事で起きうる事を極力客観視し記録を行う。記録を行うことで得られる知見を今後他の利用者に承認・自己実現プログラムを実施する時に参考にする。

事業の成果

福祉的な成果

福祉的な環境以外に身を置く事で、社会性が自然と身に付く様が見てとれました。またメンタルの調子を崩した時でも、福祉以外の人（特に初見

の人）が多い環境に行くと症状が緩和されていく事が見てとれました。慣れ親しんだ環境でゆっくりする時、そうでない環境で緊張をする時、この行為をその人の処理能力より少し上あたりのレベルで繰り返す事により、成長を促せる事も気づきとしてありました。自己実現とは苦しみながらも成長している自分を感じて生きていく事ではないかとおっしゃって頂きました。

音楽的な成果

今までは II-V-I フレーズを練習の中心に置いて慣れ親しんだメンバーとセッションを行っていました。今回はその場で初見の方と音合わせをする事が中心となり、ヘッドアレンジ等やや専門的な事も行わざるを得なくなり、最初は困惑されておりました（何を言っているかわからないと言っておられました。）。弱点としていた 8 バースや 4 バースも失敗を繰り返しながらこなし方を覚えていけました。相手の出音を良く聞いてという部分はやや苦手としつつも、当初よりは明らかに聞けるようになっていいると思われます。アドリブソロに関してはそもそもお上手でしたが、音量幅（ピアノやフォルテ）を意識して出来るようになったとおっしゃっておられました。

事業所全体としての成果

第一に、障がい者、高齢者ともに施設に通う事で生き生きできるような環境作り。第二に、コミュニケーションや働きかけの促進が期待されます。そして、今回の新事業「精神障がい者の音楽を通じた社会参加」では、当事業所でのこれまでの精

神障がい者の支援モデルケースのひとつの集大成となったと思います。当事業所を利用し始めてから、少しずつ利用者自身が自分への自信と生きがいを見つげながら、支援者や他の利用者たちとの交流、そして当事業所外のプロのミュージシャンとの交流を通して、自己肯定を促すとともに、社会に向けた明るい第一歩を踏み出せることとなったと思います。

■ 成果の広報・公表

関係者の方々・・・Youtube にてジャムセッションの内容を配信致しました。外部の一般の方やセッションホストの方も映ってられますので、限定公開という形をとらせて頂いております。

他の利用者・・・動画を見たりして、活動内容を確認されたりしております。ジャズに関する音楽活動が中心になりましたが、他の分野（例えば配信やダンス）の方もこのような活動の仕方があるのかと興味を示されておりました。

ご本人・・・セッションの内容を確認し、自身に何が足りないか、どのようにしたら成長するかを考えておられました。楽譜の暗譜及び移調という明確な課題を見つけられたようです。ご本人の中では自己実現というよりは音楽的課題抽出に思いがいかれた様子でしたが、この課題を見つけて成長を望む姿が自己実現に繋がると感じていらっしゃる様子でした。

■ 今後の展開

ジャズに関する音楽活動を中心に今回の事業を行わせて頂きましたが、音楽班はこのまま継続してセッションや演奏活動を継続する事はもちろん、他の利用者・他の分野で自己実現プログラムを行いたいという方を募り、今回のプログラムで得た知見を基に幅広い分野での活動を行って頂き

たいです。

支援者としても福祉的な要素と他の分野に精通していないとこのプログラムは実施出来ないの
で、支援者の専門的学習能力の向上や福祉的なスキルの向上にも繋がる様に活動を行う事が大切だと感じております。又障がい当事者の方も日中活動の中で外に向けて活動しようと思えるような環境を整えていきたいと考えております。そのためには普段から利用者の方とコミュニケーションを幅広く行い、どこに興味があるのかピックアップする作業が大切だと感じました。

社会的に1つの分野で通用するという事は大変難しい事ですが、継続的に活動を続けること自体に人としての根拠が培われ、成長に寄与するという事を感じて頂けるような活動としていきたいです。